東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

JASWHS　公益社団法人　日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 27 年 3 月 30 日　第 4 巻（第 9 号）

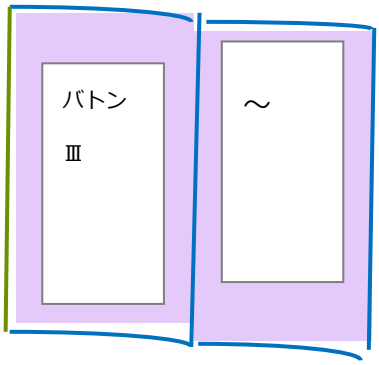
発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル2F
災害支援チーム　TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1．　1 年を振り返って
2．　JIMTEF 災害医療研修
3．　活動報告
4．　災害支援チームからのお知らせ
5．　災害支援ニュース発行のお知らせ
6．　あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」
が発行されました。

ホームページをご覧ください！！



東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」　発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」　発売中！！

詳細は“3．災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

1．１年を振り返って

石巻現地担当　　松川　夏実

早いもので石巻に来て 1 年が経とうとしています。去年の今ごろ、新しい土地での生活、仕事、資格取得の為の勉強…と不安と期待で胸いっぱいでした。同じように、この1年は住民の方々が“復興”という変化していく環境の中で、不安と期待を胸にしているのを感じました。

前年度からの個別ケースや男の遊ぼう会、引きこもりの子をもつ親の会に加え、今年度は、週 3 回の生活再建支援課への出向、復興公営住宅入居に伴う支援が始まりました。生活再建支援課での業務では、環境や設備等のハード面ではない、騒音問題や住民トラブルなどを対応しました。環境の変化によるストレスから家族不和や疾患の悪化、仕事がなくなり閉じこもりがちになっている方、過敏に音に反応し不眠になっている方等、仮設住宅で“トラブル”と言われる事柄の背景には、それぞれの生活が安定していない現状がありました。

また、復興公営住宅入居に伴う支援では、復興公営住宅入居や宅地分譲が始まり、仮設住宅から自分たちの生活の場へ移行していく人々がいる中で、その波にのれず、「自分の生活再建が考えられない人」「手だてがわからない人」がいること実感しました。

復興公営住宅の入居支援で出会った男性は「避難所から出るときに、本当に最後の最後だった。だだっぴろい体育館に 1 人になって、なんで俺だけ？と思った。」と話してくれました。避難所から仮設住宅に移行する際に感じた不安や焦りが、復興公営住宅へ移行する際に起こることが予想されます。

ただただ、人を移動させるというわけではなく、その人その人の生活がそこで営まれ、思いがあることを“復興”という言葉に流されず考えていくことが大切だと思いました。仮設住宅から復興公営住宅へと“外枠”は変わっても、本当の意味で“生活の安定”が図られなければ、解決できないものがあるのではないかと感じました。この 1 年は、目まぐるしく変化していく中で、住民の方々の生活と気持ちに寄り添っていくことの大切さや、改めてソーシャルワークの楽しさを実感しました。

震災から５年目に入りましたが、住民の方々の生活の安定には、まだまだ時間がかかるかと思います。来年度も現地職員は“現地の一歩一歩に寄り添って”いきたいと思います。

最後に私事ですが、おかげ様で無事資格取得することができました。実習期間中に来ていただいた協力員の皆さまはじめ、現地を思いサポートしてくださる方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

2. JIMTEF 災害医療研修に参加して

石巻現地責任者　畑中　良子

2014 年 11 月 15 日、16 日に JIMTEF の災害医療研修　ベーシックコースに、2015 年 2 月 14 日には同研修　アドバンスコースに参加させていただいた。

この研修は公益社団法人　国際医療技術財団（JIMTEF）が主催で参加職種は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、診療放射線技師、臨床工学技士、鍼灸師、柔道整復師、マッサージ師と多岐に渡っていた。医療ソーシャルワーカーは私、一人であった。北は北海道、南は鹿児島県までベーシックコースには 50 名、アドバンスコースには 54 名の参加者数であった。

ベーシックコースでは災害への体系的な対応に必要な項目として「CSCATTT」というものを学んだ。

C:Command　指揮、
S:Safety　安全、
C:Communication　情報、
A:Assessmsnt　評価、
T:Triage　トリアージ、
T:Treatment　治療、
T:Transport　搬送

そしてトリアージタグの使用も行った。知識として得ていたとしても実際に触ってみないと分からない事もあるし、一瞬に判断をするというのは普段からの訓練がないと迷ってしまうという当然の体験をした。30 秒以内で呼吸・循環・意識状態の 3 つのパラメーターでトリアージをする事が通常だとの事であった。

チームビルディング・組織論ではチームの方向性をそろえるために必要な事を６点あげられていた。以下に記載する。①役割認識、目的（目標）の共有→日々変わる行動目標を浸透させる。②状況の説明（フォレットの法則）→理由・背景を添えて説明する。③迅速で的確な意思決定→限られた情報をもとに決断。迷ったら考えを人に聞いて受け止めを聞く。④正しい情報の共有・伝達手段の確保。⑤「報告」「連絡」「相談（＝調整）」⑥信頼関係※言うこととやることを合せる。この６点だ。この話を聞いたとき、急性期のチームにも必要だと思うが、現在の協会で行っている災害支援活動にも当てはまる事だと感じた。適切な情報がないと的確な判断ができない。判断に迷えば聞く、一人では抱え込まない。という講師の方からの言葉には今の自分を振り返る機会となった。石巻の現地スタッ

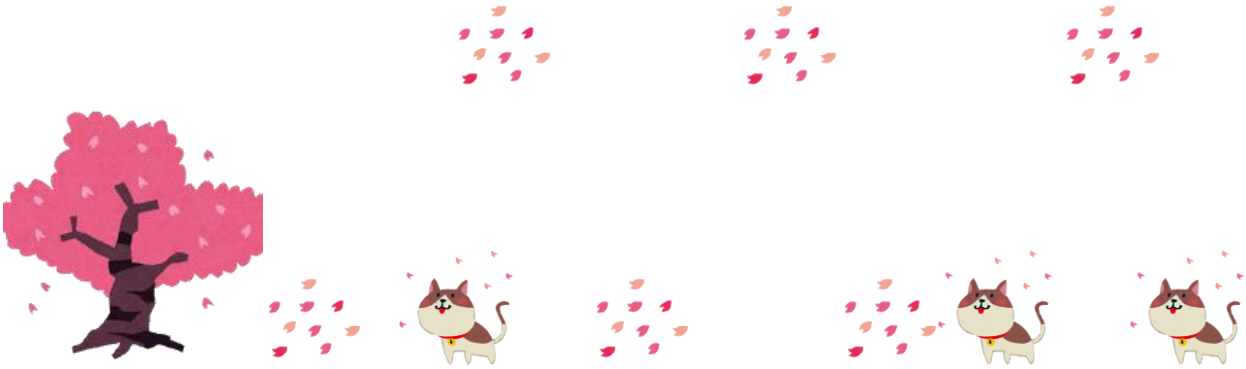
フでは１週間に１回は３人で予定や今のトピックス、見えている課題にどのように対処していくか？などについて話し合う機会を設けている。普段、コミュニケーションを取っているつもりでも情報共有がなされていなかったり、何のために今、これをやっているのか？という状況の説明が不足していると同じ目標に向かっているつもりでも思いにズレが生じる。
今回の研修を受けて、今後のチーム活動に活かしていきたい。

また、アドバンスコースでは本部運営のロールプレイを行った。初めて顔を合せたメンバーで誰も経験がない事をやることの難しさ、役割を決めるがその役割を個人が認識している内容に差が生じ、チームとしてうまく機能しないという体験を行った。災害等の非常事態で通常、関わりのないメンバーとチームを組む、そのストレスと困難さ。本部運営がうまくいかないとそこを起点に動く他のチームに影響をする事なども体験した。経時活動記録（クロノロ）の書き方も学んだ。

同じソーシャルワーカーなら共通言語があり、記録の取り方などの統一もある程度できやすいのかもしれないが、多職種間では難しい事もある。しかし、記録の方法を統一し、そこから得られる情報にばらつきがでないようにすることがいかに混乱を招かない事に繋がるかも理解した。

また、「次の災害に備える」というパネルディスカッションにも参加させていただいた。多職種の取り組みを聞き、東日本大震災を機に職種として何が出来るのか？を再検討し、研修体制を構築していたり、他のチームや団体とどのように連携できるのか？を検討し、形となりつつあることを知った。

東日本大震災は大規模な災害であったが、その後の御嶽山の噴火、広島県の土砂災害等、国内外でも災害は起きている。次の災害に備えて、医療ソーシャルワーカーとして研修や養成体制も含め、検討し、実行していく時期になっている事を感じた。



3. 活動報告

協力員　長谷川　敦

仙台循環器病センター　（宮城県）

活動期間：2015 年３月 18 日

男のあそぼう会　午前　春の海苔巻づくり
午後　今年度反省会次年度活動の相談

お世話様です。東北　長谷川でございます。今年度、最後の活動は、参加者７名　スタッフ９名(笹岡統括含む)宮城県協会からも定例２名の参加で活動をさせていただきました。当日は、RCI のみなさまも最後の活動になりましたが、スタッフ・参加者全員による約３メートル半の巨大な海苔巻づくりでは、今年度の活動にふさわしいものとなり、参加者・スタッフの笑顔が絶えない達成感が一人一人あふれていた印象でした。詳しくは、フェイスブックに掲載してあります。現地石巻の報告をご覧いただければ幸いです。試食会では、参加者からの差し入れ　菜の花　さつま芋等を天ぷらにして海苔巻といっしょに試食をして、次年度等の活動を相談しております。被災者一人一人の想いと先人のスタッフの支援・現在の派遣員・RCI のみなさまの支援がここまでグループの成長を支えていただいたと実感しております。私達県協会も昨年から関わりをもち何とかここまで継続させていただきました。それぞれの想いが今後、この活動に良い影響を与えられるように精進してまいりたいと考えます。

次年度におきましても、詳細はこれから相談ですが、お花見会を計画しております。卒業される RCI のみなさまをお呼びしてまた盛り上がりたいと考えます。毎回のことではありますが、
朝５時 30 分に起き、約２時間かけていくことが苦痛にならないくらい自分に気づきをいただける会になり、新人・ベテラン問わず ワーカーにとっても不思議な魅力がある会です。
全国のみなさまも機会があれば、今後も石巻へおいでくださいませ。

協力員　菊地　知憲

総合南東北病院　（宮城県）

活動期間：2015 年 2 月 19 日

今回は男のあそぼう会の継続の有無に関して参加者、支援者で検討した。ＲＣＩが事業を停止するのに伴い、本会の支援継続も困難となることから会の継続性に関して参加者に意見を述べてもらったが、全員が継続の意思を表示した。男のあそぼう会が大きな楽しみであり、拠り所になっていること参加者が皆感じているということある。しかしながら、今後は準備してもらったものに参加する段階から、自分達も準備や運営に加わり、いずれは自主的な運営ができるようなグループに変化していくことが求められる。参加者のなかでも、会の運営に関われる人、参加することで十分な人等、能力や個性は様々である。その部分を支援者が評価し、働きかけることで男のあそぼう会も主体的、自主的な組織に変化できる可能性を感じることができた。同時に支援者側に関しても、支援の方針や体制を検討するという課題が生じることとなったが、宮城県医療社会事業協会として今後の支援方針に関して検討していくことが必要である。

男のあそぼう会の参加者の話は非常におもしろいです。石巻が最盛期だった頃の話は聞く価値があります。

協力員　水溜　丹都子

神戸赤十字病院　（兵庫県）

活動期間：2015 年 3 月 9 日～11 日

発災から 5 年目を迎える石巻は、一見普通の生活が戻っているような町並みと、仮設住宅や整地途上の（または手付かずの）広大な空き地と、その格差に胸の痛む様相でした。

現地職員の方に同行させていただいた仮設住宅の方々は、おそらくは震災で顕在化したのであろう家族間の問題の大変さやご自身の精神的なしんどさなどを、何とか自分の中で消化しようとされているように感じました。復興公営住宅への入居申請手続きは、煩雑な書類の準備や保証人のことなど、その困難さや複雑さにお手伝いが必要です。でも、それ以上に、今のお気持ちに耳を傾けその方の力量を見積もりながら伴走していくことが、次のステップに進んでいくためには必須の支援で、そこにソーシャルワーカーの存在の必要性を痛感しました。

男の遊ぼう会の誘い出しを兼ねて訪問した方は、津波で流された海辺の町を離れ、山の上の仮設住宅で生活されています。穏やかな表情で発災当日の体験や避難所生活で考えた事を聞かせてくださり、辛さをパワーに変えるたくましさを感じました。彼のありのままを肯定し共に進む姿勢を崩さないソーシャルワーカーの存在が、とても大きいと思われました。

生活困窮者自立支援事業の「エリア支援体制の構築」を目指すボランティア団体等の「なまこん協議体ミーティング」では、さまざまな立場で活動されている方々の石巻への熱い思いをお聞きする事が出来ました。この思いからスタートする活動を公的な責任のある事業につなげていくためには、当協会ソーシャルワーカーの役割は大きいと感じました。この活動は、当協会が 5 年で終結に向かおうとするラストの 1 年間で、石巻の地域や行政に何をどのような形で引き継いで行くのか、まさしく同じ課題を抱えているようにも思えました。

最終日は午後から、石巻市追悼式に参列しました。国の追悼式典の放映を見た後、石巻市の会場では「ふるさと」の合唱。戻れない、戻らない、戻りたい、被災された方々の心を思うと、悔しい思いでいっぱいになりました。夕方には「がんばろう石巻」の看板前でのキャンドルサービスに参加。まわりの風景は去年とほとんど変わらない印象で、そのことがまた切なく、複雑な気持ちで会場を後にしました。

学ぶこと、引き継ぐこと、繰り返さないこと、そして何よりも風化させないこと。そのために何が出来るのか、多くのことを考えさせられた 3 日間でしたが、今回ほど今後の継続への必要性を感じたことはありませんでした。

多くの方に、石巻の「今」を見ていただき、感じていただき、被災者に寄り添った支援の意味を共に考えていきたいと思います。いつどこで起こるかがわからないのが災害です。石巻での体験は、自分自身のソーシャルワークの振り返りと共に、それぞれの「減災や防災」を考える良い機会になると思います。チャンスは後１年間。ぜひ、現地に足を運んでください。得るものがたくさんあると思います。

４．災害支援チームからのお知らせ

【1．協力員募集】

現　　地

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆　４月は募集休止期間とさせていただきます。　☆
☆　５月からは以下の内容にて募集いたしますので、ご協力下さい。　☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

現在、１日にあたり上限２から３名で募集しております。
現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。
活動日程つきましては下記のようにお願い致します。

期　間：　平日３日以上　、
受入日：　期間を満たす曜日　　（土、日、祝日は活動致しません。）

但し、上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。
※　出発２日前までには（到着時刻等を含めて）は必ず現地担当にご連絡ください。
今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事　務　所

引き続き募集しております。
平日のみの活動ですが１～２ヶ月に１回でも構いません。
ご協力お願い致します。

【2．災害支援チーム会議開催のお知らせ】

３月 25 日（水）19：00～21：00　　於：協会会議室

【3．書籍販売】

『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の
販売を行っています！

発災から 2011 年９月３０日までの石巻・仙台・大槌町・事務所･災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年１２月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年１月から 2014 年３月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせて頂きます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4.facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

URL
http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL
http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定　４下旬予定

6. あとがき

災害支援チーム事務局から

先日、石巻の牡蠣とわかめを食べる機会がありました。牡蠣のひとつぶが大きく、わかめの柔らかくやさしい食感に感動しました。ここにも少しずつの変化を感じることができました。

さて、新年度が始まりました。現地メンバーの交代はないとのこと。また、引き続き活躍してくれることでしょう！！ニュース担当も、現地の情報を楽しくお知らせできますよう努力してまいります。よろしくお願いします。

担当　冨永

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 27 年 3 月 30 日第 4 巻（第 9 号）
作成　日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局